

キャンパス点描

女性研究者研究活動支援事業(連携型)平成26年度キックオフ・シン ～お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構の3機関

お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構(NIMS)は、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」に共同申請し、採択されました。

事業の開始にあたり、「工学系の女性研究者比率の向上」や「工学系女性比率向上の好循環モデルの構築」について考えるキックオフ・シンポジウムを2015年2月15日(日)に開催しました。



はじめに、お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構による協定調印式が行われ、羽入佐和子学長の開催挨拶の後、川上伸昭氏(文部科学省 科学技術・学術政策局長)からご挨拶を頂戴しました。

その後、基調講演として國井秀子氏(芝浦工業大学 学長補佐・男女共同参画推進室長・大学院工学マネジメント研究科教授)

から理工系における「女性研究者・技術者の活躍に向けて」、また、原山優子氏(総合科学技術・イノベーション会議常勤議員)から「女性にとっての選択肢『工学系の研究者』とは?」と題してお話いただきました。

さらに、「工学系女性比率向上の好循環モデルの構築を目指して」をテーマとして、村山雅人氏(芝浦工業大学学長)、潮田資勝氏(物質・材料研究機構理事長)、羽入佐和子本学学長による鼎談が行われました。そして、地方自治体や企業など多様な立場から意見が取り交わされ、シンポジウムは盛会裏のうちに終了しました。

「OGと在校生との交流会 -face-to-faceで語ろう-」を開催しました

お茶の水女子大学主催による、OG・在校生・教職員のネットワーキング構築イベント「OGと在校生との交流会」が、2014年12月4日(木)に開催されました。このイベントの開催は今年度で3回目となります。当日は師走の冷たい雨にもかかわらず、26名のOGの方々と50名を超える学生・教職員が参加する盛会となりました。

今回お声をかけた卒業・修了生は、1976年度から2008年度に他大学を含む学部をご卒業されている有職の方々です。一方、在校生は、学部1年生から大学院生まで幅広い学年が出席し、フレンチシェフによる季節のカナッパやデザートに舌鼓を打ちながら、会場は大いに盛り上がりました。

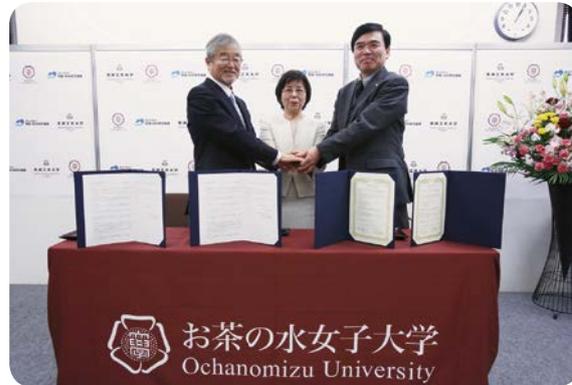


交流会後のアンケートでは、学生からは「時間があっという間だった」「OGの方と話す大変貴重な機会だったので、来年もこのような機会があればぜひ参加し



たい」という満足度の高い回答が多数寄せられ、就職活動を含め先輩からのアドバイスを求める学生の多いことが感じられました。また、OGの方々からは、「まだ具体的な将来像の描けていない学生が多い中、どのような可能性や関心があるのかについてコーチング的に引き出した」「在校生の就職活動に関する悩みや迷いを聞いた」といったコメントが寄せられ、後輩の声に真摯に耳を傾け、支援を惜しまない卒業生の姿が浮かび上がりました。参加した理由については、在校生やOGの方ともに「前回も参加して大変よい会だったので」「毎年楽しみにしています」という回答も多く、主催側も当交流会の開催意義を改めて認識することができました。

ポジウムを開催しました が協力して、日本の「工学系女性研究者比率の向上」にチャレンジ!~



平成26年度学生表彰式を開催しました



2014年12月17日(水)に、平成26年度学生表彰式を開催しました。学生表彰は、学業・学術研究活動分野、課外活動分野、社会活動分野で特に顕著な業績を挙げ、かつ学界又は社会的に高い評価を受けた者、本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対し、それを称え賞するものです。

平成26年度は成績優秀な学部4年生24名、研究において顕著な業績を挙げた大学院生1名、課外活動において功績を挙げた学生1名及び舞踊教育学コース学生一同、社会活動において功績を挙げた学生1名に対して、関係教職員臨席のもと、学長から表彰状と記念品が贈られました。

お茶の水女子大学理科教育復興支援 研修・意見交換会を開催しました

2015年1月13日(火)に、理科教育復興支援研修・意見交換会を開催しました。岩手県沿岸部の小中学校教員・副校長及び教育委員会指導主事・課長ら21名が参加し、ICT機器を授業に活用する方法や、小中学校を結ぶ電磁石の実験、地球分野の実験・教材などの研修を実施し、これまでの振り返りと、今後の発展的な理科教育復興支援活動につなげるための意見交換会が行われました。

参加者からは次のような意見をいただきました。(抜粋)

「どんどん積極的にお茶大と連携していきたいです。理科の教材開発の他、復興、5年後の東北について考えることができるいい機会でした。他校の実践事例を直接伺うことができたことや、教材を教えていただいたことが大変有意義でした。

支援がなくなっても自立していけるような支援というのがすごく大切だと思いました。私たちの思いをくみとり、寄りそった支援、ありがたいです。」



スマホ顕微鏡でウコの受精卵を観察

キャンパス点描